

首里城復興基本計画（骨子案）

第1章 はじめに

1 基本計画策定の主旨・目的

- 沖縄県が4月に策定した首里城復興基本方針に基づき、施策の具体的な方向性等を体系的に定め、計画的に復興を推進していく。
- 県民等、企業・団体及び大学・行政他関係機関が基本計画を共有することで、未来を見据え、首里城に象徴される沖縄の歴史・文化の価値を確実に次世代に伝達し、それぞれの時代にふさわしい新たな文化創出など沖縄発展の礎として首里城復興に一体的かつ継続的に取り組んでいく。

2 基本計画の期間

- 令和2年（2020年）度から令和13年（2031年）度までの12年間とする。
- 沖縄21世紀ビジョンの目指す将来像が概ね令和12年（2030年）であること、新たな振興計画の最終年度が令和13年（2031年）度であることを考慮して設定。
- 令和2年度を始期として令和3年度末までを短期、正殿復元予定である令和8年（2026年）度末までを中期、令和13年（2031年）度末までを長期として区分・整理する。

3 首里城復興が目指す将来像

- 首里城復興は、首里城の復旧のみならず、首里城を中心とした歴史・文化の再評価及びこれを基層とした文化の発展・復興による沖縄振興につなげていくこと。
- 首里城復興により目指す将来像を次のとおり設定し、各基本施策及び施策展開を具体化していく。
 - 首里城を中心とした古より体験・継承している歴史・文化を基層として、ふるさとへの誇りや愛着を感じられる社会が形成されるとともに、その時代に生きる私たちがそれぞれの挑戦を通して多様で重層的な沖縄振興が果たされている。そして、これらが積み重なって沖縄の新たな歴史・文化が創造され、これらが基層に加わることで、さらに発展していく社会。

4 基本計画の位置づけ

- 基本計画は、令和4年（2022年）度を始期とする新たな沖縄振興計画に係る実施計画において、首里城復元はもとより首里城を中心とした沖縄の歴史・文化の観点から沖縄振興を目指す施策のマスタープランとなる。

5 基本計画の構成

- 体系図を表示

第2章 基本施策及び施策展開の方向性

基本施策1 正殿等の早期復元と復元過程の公開

基本施策のねらい
目標とするすがた
主な課題
目標達成への道筋
基本施策の体系
施策の方向性
主な主体と期待される役割

- 8つの基本施策ごとに取りまとめていく。
 - 首里城復興基本計画に関する有識者懇談会・同部会において議論。
- R2. 9.14 合同会議
10.23 琉球文化継承・振興部会
10.28 新・首里杜構想検討部会
11.27 有機者懇談会
12月 各部会(予)
R3. 1月 各部会(予)
2月 有識者懇談会(予) 最終

基本施策2 火災の原因究明及び防火設備・施設管理体制の強化

基本施策3 首里城公園のさらなる魅力の向上

基本施策4 文化財等の保全、復元、収集

基本施策5 伝統技術を活用と継承

基本施策6 「新・首里杜構想」による歴史まちづくりの推進

基本施策7 歴史の継承と資産としての活用

基本施策8 琉球文化のルネサンス

基本計画の着実な推進

- 1 国、那覇市等関係機関との連携
- 2 国内外の学術ネットワークとの連携
- 3 県民等の継続的な参画による復興